

ナベヅルの繁殖地について

藤 卷 裕 蔵

日本の鹿児島県出水に飛来する7,000羽余りのナベヅルの繁殖地は1ヶ所しか分かっていませんでした。ソ連の極東南部、一般的には沿海地方と呼ばれているところです。アムール川とウスリー川が合流するところがハバロスクです。その南にビキン川があります。その流域にビキンという町があります。そこから70kmほどさかのぼるとヴェルフヌイ・ペレヴェルという村があり、そこを拠点にナベヅルの調査をしました。

ここは周りが森林で囲まれた湿原です。湿原はミズコケのまんじゅう、ヤチ坊主があります。そのまんじゅうの高さが約30cm、その下に20~50cmの水があり、股の下までそれに埋もれてとても歩きづらい。しかし、ノロ、アカシカやヘラジカが歩くけもの道があり、ここは比較的歩きやすいが平地を歩くよりは歩きづらい。

ナベヅルは湿原の中でも周りに木が生えているところで繁殖します。バイカル湖からヤクートにかけてナベヅルは分布しますが、日本で越冬する7,000羽余りのナベヅルがどこで繁殖するかは分かっていません。分かっているのはビキン川だけです。

ナベヅルがここに来るのは4月の初めで、私たちが行った5月初めはナベヅルの抱卵の時期でした。ウラジオストクから調査に来たシブネフさんは地元の出身でこの周囲の地理に詳しく、すでに7個のナベヅルの巣を見つけています。レニングラード大学のプキンスキーが初めて巣を発見していますが、彼が2個の巣を見つけていますから今までに9個の巣が発見されています。私たちが奇跡的ともいえる巣を見つけたので合計10個の巣が確認されています。

私たちが発見した巣はキャンプから1Kmほど離れた場所です。この湿原に入ったのが5月11日で、巣を発見したのは2日後の5月13日でした。巣は樹木でブラインドを作り、そこで観察しました。巣は見通しの良くないところにあり、おそらく空から見ても発見されにくいところです。巣はけもの道が互いに交差するところに作ってありました。

ミズコケのまんじゅうの上に立つと体半分が埋もれて首が少し見えるだけで双眼鏡で見ても見落としそうなところでとても観察しづらい環境にある。ナベヅルの卵に触れました。私が観察したところでは、雌が抱卵しているのは短い時間で、他はほとんど雄が抱卵していました。卵は5月13日に発見して、24日に孵化した。孵化直後のヒナの体重は100g位でしたが、5日後には150gの重さに成長していました。

調査した村の人口は約2,000でビキン川のほりにある村で、ほとんどの人が林業に従事しています。村の建物は皆同じようなログハウス風の造りでした。暖房はペチカで燃料は薪でした。村の子供たちはナベヅルはここで繁殖し日本で越冬するということはよく知っていました。